

学費に関する考え方について

このたび動画作成にあたり、ご父母、保証人の皆様から大学の授業やキャリア支援等に関しご質問を頂いた中に、学費に関するお尋ねがございました。改めてこの機会に大学より説明を申し上げます。

大学は、教育・研究活動を安定的、永続的に提供し、その成果を新たな教育や研究、社会に還元するという持続的な循環によって、その役割を果たしています。

そのため、学費は単年度の教育や施設利用の対価としての位置づけではなく、学位授与を見据え、総合的な教育環境を提供するための費用としてご負担いただいております。必要な人員の配置やキャンパスの施設整備など、社会の変化に即して長期的に大学を維持、発展させること、そうした教育・研究の循環の中で、学生の学ぶ環境を充実させるために大切にに使わせていただいております。先端の研究施設・設備を維持し、専従する教職員を確保して円滑な運営を図るとともに、新たな校舎の建築や大規模な改修の費用といった中長期的な計画にも活用されています。ここ数年もキャンパス整備計画をすすめてきましたが、完成したばかりの新校舎で学ぶ学生もいれば、建築現場だけを見て卒業していく学生もいました。こうした人事、施設などの計画が、時代に応じて求められる教育研究プログラムや、環境整備の改革を実現するものであるという理解をいただき、教育研究活動の歩みを止める事無く発展を遂げることができました。現在の学生は、このように歴史的に積み上げられた環境を引き継いで学んでいることとなります。

また、一部対象学科において、実験実習費についてのお問い合わせも頂いておりますが、前述の学費全体の考え方と同様に、実験実習費についても、個々の経費の積み上げではなく、設備の整備、維持も含めた総体をもとに、学位取得までの期間に配分しご負担をお願いしているものです。今年度はやむなくオンラインで行っている実験・実習科目もごございますが、対面授業に相当する教育効果を維持するよう教育方法の工夫を行うとともに、一部は開講学期を変更し秋学期に対面にて行うなど、複数学期、複数年度の中で弾力的に対応してまいります。

現在のコロナ禍において、本学が何よりも重要だと考えることは、地方や海外にいる学生も含む全学生の学びや研究を止めないこと、質の高い授業の提供に努めることです。授業に関しては、各学期でオンライン授業に関する学生アンケートを行い、状況の把握と改善に取り組んでおります。

また、経済的困難を抱えた学生への経済支援、オンライン環境の整備や必要な機器の無償貸出、コンビニでのプリントサービス、図書郵送サービスなどを続けております。卒業、修了に必要な研究活動や図書館利用は早期に再開いたしました。コロナウイルス流行状況を見ながら他の学内活動も増やしているところです。本学では、一般のコロナ禍において5億円規模での学生支援、修学環境の整備を念頭に置いておりますが、この資金は金融機関からの新たな借り入れによって調達されたもので、非常時にあっても正課、正課外の活動を継続し続けるために使われています。

諸外国の動向をみても、オンライン授業は、コロナ禍における緊急的代替措置ではなく、時間や空間を超えた新たな多様な学びの可能性を持つものです。問題なく対面授業ができる状況になっても、本学の持つ国際的なネットワークの強みをオンライン教育環境においても活かし、日本にいながら海外の研究者、学生と学ぶプログラムなど、新たな形態の教育の開発にも踏み込んでいき、学生の学びを深化させていく所存です。

本学は、“多様な構成員がキャンパスに集い議論を交わす場としての大学”という大きな特徴を伝統的に堅持してきました。また、学生と教職員、学生同士といった人と人とのつながりを教育環境の中で重視してきました。今後もこの考え方が変わることはありません。時代の変化に対応しつつ、教育の質、学位の質の高さを追求していく大学として責任と覚悟をもって臨みます。

以上でご説明いたしました学費についての本学の考え方は、日本私立大学連盟が私立大学の実情として9月に公表した見解（日本私立大学連盟ホームページ https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=2937）にも同様に示されております。

本学院において学費や補助金等を含む収入がどのように支出されているかについては、毎年、本学公式ホームページにて財務情報を公開しておりますが、引き続き、学費をご負担いただく皆様のご理解を得るよう適切な説明に努めてまいります。何卒ご理解のほどお願い申し上げます。

2020年11月9日
上智大学長 曄道 佳明